

はちのへ 市議会だより

平成19年12月定例会

No. 60

2008年(平成20年)1月20日発行

編集・発行 八戸市議会 八戸市内丸一丁目1番1号 ☎ 43-2111 内線404

はちのへ市議会だよりは、市のホームページでもご覧になれます。

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp>



平成19年12月定例会は、12月4日から12月18日まで、15日間の会期で開かれ、平成19年度一般会計補正予算など市長提出議案34件、議員提出議案1件を可決して閉会しました。



地球深部探査船「ちきゅう」展示コーナー オープン

12月1日、地球深部探査船「ちきゅう」展示コーナーのオープニング・セレモニーが行われました。

平成19年度12月補正予算

一般会計補正額 17億3,571万円 補正後の予算額 835億9,261万9千円

主なもの	○障害者自立支援サービス事業費	96,000千円
	○市民病院事業会計負担金等	1,206,300千円
	○中小企業特別保証制度保証料補助金	43,000千円
	○中小企業振興補助金	20,451千円
	○企業立地促進補助金	97,521千円
	○自動車運送事業会計補助金	266,000千円

市政に対する 一般質問

財政、福祉行政、観光行政、環境行政、教育行政など、183項目の質問の中から質問議員1人につき1項目を取り上げ、要旨を掲載しました。

市美術館に専任の館長を

自由民主クラブ

坂本 眞将

【問い】 今後予想される業務の増大や、他の類似施設との均衡を考え、市美術館に専任の館長を置くべきでは。

【答え】 現在、美術館には、学芸員一名と事務職二名が配置され、博物館長が全体を統括している。

美術館で実施している市民ギヤラリーなどの事業を拡大・充実していくためには、学芸員のより積極的な活動とともに、運

営面における迅速な意思決定などが求められることから、専任の館長は必要であると認識しており、配置について検討していく。

年次有給休暇の

取得の状況と推進策は

社民党・市民連合

山名 文世

【問い】 市職員や民間の労働者にとって、年次有給休暇の連続取得などがしにくい環境にあるが、それぞれの取得の状況と推進策を伺いたい。

【答え】 市長事務部局職員（市民病院除く）一人当たりの年次有給休暇の平均取得日数は、ほぼ横ばい傾向にあり、昨年は十一・七日であった。

今後、それぞれの業務スケジュールに合わせた計画的な休暇取得を徹底するとともに、他都市の状況なども参考にし、さらなる取得促進に努めていく。民間については、国の発表によると昨年の休暇取得率が四十六・六％と過去最低となっており、青森労働局や八戸商工会議所などと連携を取りながら、制度の推進に努めていきたい。

吹上地区の通学路の

歩道整備を

自由民主クラブ

小屋敷 孝

【問い】 吹上地区の通学路における歩道整備が不十分であり、早期に整備すべきと考えるが、古町医院前と、第一中学校から東高校までの歩道整備について所見を伺いたい。



吹上地区の通学路

【答え】 古町医院前の市道東外中居一号线は、通常の二m幅の歩道設置が難しい状況にあり、区画線表示を工夫するなど、地元町内会とも協議しながら、整備手法について検討していく。また、第一中学校から東高校までの市道北館越線は、歩行者が多いなど、歩道整備の必要性

は高いが、多くの家屋移転などが伴うため、全線にわたる早期整備は難しい状況である。

今後は、地元町内会などと十分協議しながら、有効な整備手法を検討していく。

マリエントを増築して

展示物の拡充を

政風クラブ

寺地 則行

【問い】 水産科学館マリエントに地球深部探査船「ちきゅう」関連の展示コーナーを開設したのを契機に、今後、教育的見地からも当館を増築して展示を拡充していくことが必要と考えるが、所見を伺いたい。

【答え】 当館は、八戸の海や漁業などを楽しみながら学べる施設として、小・中学生をはじめ多くの方々にご利用されている。本年十二月一日から一般公開している(独)海洋研究開発機構の「ちきゅう」に関する展示コーナーについては、今後、同機構に要望しながら展示物の拡充に努めることとし、状況に応じて展示スペースのあり方や展示方法について検討していきたい。

八戸広域で

「食」を通じた連携を

政風クラブ

石橋 充志

【問い】 市町村合併につなげていく手段のひとつとして、八戸広域の関係町村と「食」を通じた地域連携の構築を進める考えはあるか伺いたい。

【答え】 当市および周辺七町村の地場産品の普及や販路拡大などを図るため、(財)八戸地域地場産業振興センターでは、需要開拓事業や地場産品展示普及等事業を実施している。

周辺町村が得意としている分野をお互い見極め、最大限連携することは非常に重要であるため、販売方法やフェアの実施など、同センターの有効的な活用方法について周辺町村の意見を踏まえ、検討していきたい。

河原木第二排水ポンプ場の 進捗状況と今後の見通しは

政風クラブ

田名部 和義

【問い】 石堂地区などの浸水被害防止のため、河原木第二排

水ポンプ場整備が進められているが、現在の進捗状況と今後の見通しは。

【答え】 平成十七年度から進めてきた土木工事は、本年六月に完了し、本年度末でのポンプ場全体の進捗率は、事業費ベースで約二十五%となっている。

今後の見通しとしては、平成二十三年度の完成を目指し、来年度に電動ポンプ二台と自家発電などの設備、平成二十一年度にエンジンポンプ二台とスクリーンを整備し、平成二十二年には、沈砂池の機械設備の整備を進め、暫定で供用開始する予定である。

中小企業現況調査の意義と

取組内容は

日本共産党議員団

松田 勝

【問い】 地域活性化には中小企業振興策の強化が大切と考えるが、市が実施している中小企業現況調査の意義と取組内容について伺いたい。

【答え】 市では本年度、効果的な中小企業支援策を構築するため、アンケートおよびヒアリ

ング調査を実施している。

アンケート調査では、市内製造業者六百五十八社を対象に、現在の売上動向や採算見通しなど、多岐にわたる項目について調査した。

また、ヒアリング調査では、アンケート調査で回答のあった企業のうち、百二十社程度を市職員などが訪問し、支援策の情報提供や詳細な中小企業者の実態と課題、行政機関への要望などについて聞き取りしているところである。

明治中学校体育館の雨漏り対策は

日本共産党議員団

畑中 哲雄

【問い】 明治中学校では、体育館の雨漏りにより、天候を気にしながら行事を行っている状況であることから、今後の対策について伺いたい。

【答え】 当体育館は、これまで部分的な修繕を行ってきたが、建築後三十六年を経過しており、老朽化が進行している。雨漏りについては、出前市役所における出席者や学校関係者

からも、対策の要望が寄せられていたが、雨漏り対策工事をはじめ、学校施設の大規模営繕工事は、厳しい財政事情の中で、施設全体の状況を勘案しながら実施しているところである。



明治中学校（校舎・体育館）

当体育館は、特に雨漏りの進行が著しいことから、その対策について検討していきたい。

妊婦無料健診の拡充を

公明党

夏坂 修

【問い】 国の財政措置の拡充に伴い、全国で妊婦無料健診の回数を増やす自治体が多くなっているが、当市における妊婦無料健診の拡充について伺いたい。

【答え】 本年一月に出された国の指針では、妊婦健診において、最低限五回程度の公費負担を実施することが原則とされている。

市では、全ての妊婦に二回、生活保護世帯や非課税世帯にはさらに二回、公費負担を実施している。

厳しい財政状況ではあるが、母子の健康増進を図るためにも、公費負担の拡充について、今後の予算編成の過程で前向きに検討していきたい。

道州制における当市の都市像は

自由民主クラブ

上条 幸哉

【問い】 県境の存在は、さまざまな形で当市の政策展開の障壁になっているが、道州制が導入された場合における、当市の都市像について所見を伺いたい。

【答え】 昨年七月から、久慈・二戸の両地域と三圏域連携懇談会を組織し、県境を越えた連携・協力の検討を行っている。仮に道州制により県境が無くなった場合は、北奥羽という自

然発生的で広範な圏域の存在と、その中で八戸の拠点性がより明瞭になると認識している。

また、自治体間の連携・協力が容易となることから、「北東北における中核都市」としての発展の可能性が大きく広がるものと考えている。

下水道の普及率向上を

社民党・市民連合

松橋 知

【問い】 市の下水道処理人口普及率は、青森県内および全国平均を下回っているが、今後、普及率向上に向け、どのように進めていくのか伺いたい。

【答え】 市では、汚水中継ポンプ場の建設などにより、処理区域拡大に努めてきたが、雨水貯留施設の建設など、雨水対策への多額投資が、普及率向上を図れなかった一因となっている。今後は、汚水管整備が、生活環境改善に直結した重要な事業であることや、市民からの要望も高まってきていることから、新技術の採用などにより、コスト削減を図りながら、普及率向上に努めていく。

緩和ケアの現状と対策は

諸派

伊藤 圓子

【問い】 市民病院では、悪性腫瘍などの入院患者に対し、緩和ケアを実施しているが、その現状と、在宅ケアを含めた課題、今後の対策について伺いたい。

【答え】 当院では、平成十四年度から緩和ケアチームを設置し、悪性腫瘍などで一般病床に入院する、身体的・精神的症状を持つ患者の症状緩和を目的に、一チーム体制で活動している。

がん患者数の増加に伴い、緩和ケアを求める患者も増加傾向にあるが、現状の体制では、医師数の問題などからチームを増やすことは困難である。

今後は、市内の医療機関との連携により、在宅ケアも含めた体制づくりが必要であり、できるだけのことは考えていきたい。

産科セミオープンシステムの現状と今後の取り組みは

自由民主クラブ

藤川 優里

【問い】 本年二月、市民病院

に導入された産科セミオープンシステムについて、近隣産院との連携が不可欠と考えるが、現状と今後の取り組みを伺いたい。

【答え】 同じシステムは、普通の妊婦健診は連携する近くの開業医で、お産は医療体制の整った当院を利用するもので、地域の産科医師不足や医療連携の推進に有効であると考えている。

現在、分べんを休止している市内の産婦人科のうち二医療機関が参加しており、当院の妊婦の約五十%が利用している。

今後、地域の限られた医療資源の有効活用を図る観点からも、医療機関の機能分担を再確認し、地域に根ざしたシステムになるよう努めていく。

売市第三地区の市街地整備方策は

自由民主クラブ

立花 敬之

【問い】 売市第三地区に関しては、できるだけ早い市街地整備を願っているが、その方策と着手時期について伺いたい。

【答え】 当地区は、過小宅地の割合が高く、家屋が密集し、

移転対象物件が多いなどの特性から、区画整理事業の長期化は避けられない地区である。

地元との意見交換会では、下水道などの公共施設の早期整備を望む声もあり、必ずしも区画整理事業にこだわらない方策の検討も必要であると考えている。

市街地整備には、地元の理解と協力が不可欠であることから、意見を聞きながら検討を進め、早期に基本的な方針を固めたい。

災害時応援協定の今後の動向は

社民党・市民連合

大島 一男

【問い】 関係機関など官民を問わず締結している災害時応援協定について、これまでの経緯と、直近の検討事項および今後の動向について伺いたい。

【答え】 大規模災害時における他市町村や民間事業者などとの連携は、災害対策に極めて有効であり、本年十一月末現在の協定締結数は十六となっている。

現在、歯の治療や医薬品の調達、家具転倒防止にかかるボランティアの育成など、防災体制

の強化となる協定の締結を検討しているところである。

なお、高齢者世帯などへの家具転倒防止事業は、人件費は無償、材料費は依頼者負担と考えており、ボランティアには学生の活用も検討していきたい。

新たな条例

主なもの

- ▽八戸市屋外広告物条例
- ▽八戸市みどりの環づくりに基本条例
- ▽八戸市特別用途地区内における建築物の制限に関する条例

意見書

議員提出議案として、次の意見書を可決し、関係省庁へ提出しました。

▽道路財源の確保に関する意見書

今定例会では五十人の傍聴者がありました。

次期定例会は二月または三月に開催いたします。

なお、十二月定例会の会議録は、二月に発行する予定です。

人事

○人権擁護委員の候補者に次の方を推薦することに同意しました。

佐々木 英治氏

樋渡 和子氏

請願・陳情の審査結果

不採択となったもの

- ▽法務局職員の増員に関する陳情
- 継続して審査するもの
- ▽湊緑地を用途を変更し、道路にする陳情

市議会の委員会等を公開します

平成二十年三月定例会の開会日以降、常任・特別委員会および議員全員協議会は簡単な手続きにより傍聴することができるようになりました。

会議日程や傍聴手続きについては議会事務局にお問い合わせください。